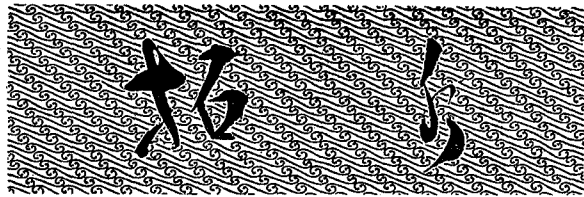


(会員の購読料は指導事業経費より支払されています)

発行所 兵庫県漁業協同組合連合会  
兵庫県水産改良普及協会  
神戸市兵庫区中之島 2-2-1  
TEL 681-6954~7  
発行人 兵庫県漁業協同組合連合会

# 豊かで充実した老後を 漁業者年金

ひとりとは万人のために、万人はひとりのために



## 漁業協同組合長・役員 研修会を開催

が、神戸市「チサン」ホテル神戸

第二回全国漁協大会を間近にし、十月三十日(金)チサンホテル神戸「あじさいの間」に於いて昭和六十一年度漁業協同組合長・役員研修会を開催。県下漁協の組合長、役員、系統団体役員、95名が出席し、盛会裡に終了しました。

主催者を代表し、兵庫県漁業協同組合連合会より、出席者への御礼とともに、本日の研修会が実のあるものとなり、明日からの漁協運営に生かしていただきたいとの挨拶がありました。来賓者を代表して、兵庫農林水産部水産課・満尾課長挨拶の後、「これからの日本経済」と題して、神戸新聞社論説委員・松浦克彦氏の講演に入り

第二回全国漁協大会の使命と、十月三十日(金)チサンホテル神戸「あじさいの間」に於いて昭和六十一年度漁業協同組合長・役員研修会を開催。県下漁協の組合長、役員、系統団体役員、95名が出席し、盛会裡に終了しました。

午後から、「協同組合の使命」について、神戸大学農学部教授、兵庫農林水産部審議会副会長・山本修氏の講演がありました。氏は、農業経済学の権威として広く知られており、協同組合にも通じて、現在、兵庫農林水産部審議会において、副会長を務め、農林水産部の振興施策の策定に尽力いただいております。講演内容は、協同組合の発展過程と現状



漁業協同組合長・役員研修会

山口県漁業専務理事 綿加直幸氏の講演(中心、神戸市垂水区東舞子「舞子ビラ」において、昭和六十一年度漁協幹部職員研修会を開催した。当日は晴天に恵まれ、明石瀬戸を一望する会場には、漁協関係職員45名、系統団体職員23名が出席し、終日熱の入った講演に耳を傾けた。はじめに、主催者を代表して、県漁業専務理事より、このたび、講演いただく講師の綿加氏は、山口県漁業の専務理事を務めるかたわら全国各地からの講演

要請を受け東奔西走しておられ、好運にも本県へお招きすることができたことに触れ、御礼の挨拶があった。来賓者を代表して、兵庫農林水産部水産課・岡本副課長の研修成果が十分に発揮されることを期待する挨拶の後、さっそく研修に入った。講演内容は、「転換期をのりきるため今、リーダーは何をすべきか」と題し、山口県での事例を上げての話には説得力があり、出席者からは、「身近な問題を具体的に」とありあげ、判りやすく大変よかった。「漁協幹

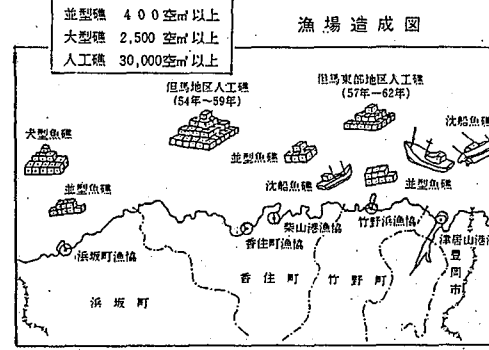
## 幹部職員研修



幹部職員研修

## 昭和六十一年 漁協幹部職員研修会 を開催

部に必要な指導力と行動力にともなう条件と心理面などともよくわかった」等々の感想



但馬の海岸線は、直線距離にして43kmと日本海側の府県では最も短かく、地形は海岸線から急傾斜をなして、岸から15mで水深200mに達しています。このため、古くから沈船魚礁を設置するなどして魚の住みやすい環境づくりが進められてきました。現在、第二次沿岸漁場整備開発事業により、並型魚礁、大型魚礁及び人工礁が造成されています。

## 冬の味 ズワイガニ解禁



今、日本海では十一月六日よりズワイガニ解禁となり、浜は活気を取り戻しています。沖合水産となつて、底曳網漁船によるズワイガニ(別名松葉ガニ)の水揚げが日本海の各組合荷捌所で行なわれ、関係者は期待したところとなつており年々減少傾向にあります。カニの断表が配布され、出席者の一喜一憂の表情とともに多数から「当たっている」との声が聞けるなど興味深いアンケートとなった。

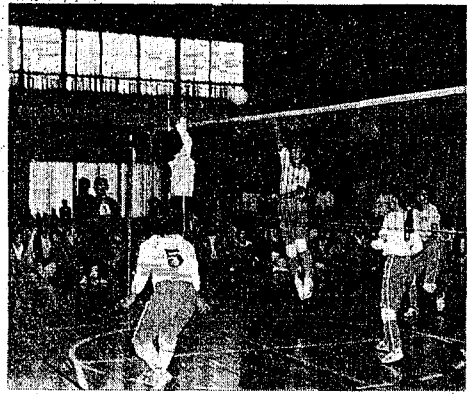
初せりでは一匹、三万円〜一万円  
セコガニ二千二百円〜六百元

が寄せられ、大層有意義な研修会となった。なおこの日はコンピューターによる「あなたが見たあなた」と題する性格、心理面の判断表が配布され、出席者の一喜一憂の表情とともに多数から「当たっている」との声が聞けるなど興味深いアンケートとなった。

全国底曳網漁業連合会すわいが特別委員会において協定した「ずわいがに」の資源保護を図る漁業調整では、漁期は十一月六日〜三月二十日までとなっております。航海船ごとに制限されています。年々の漁獲量の減少のため、カニの値段は相当なものとなっておりますが、漁礁を設置するなどして、資源管理をはかり、効率の良い漁業をめざしていかねればなりません。また、価格の低いズワイガニが多量に漁獲されていることも見のがすことはできません。県水試では、未熟ガニの育成過程について研究をすすめており、その成果が期待されています。

# 淡路漁婦連バレーボール大会

去る十月十八日、兵一に於いて、第3回淡路県立淡路勤労センタ 路水交会長杯争奪淡路地区漁婦連バレーボール大会が開催された。



地区漁婦連バレーボール大会が開催された。部員相互の親睦と健康維持をはかるため開催された大会も早、3回目を迎え、大会運営は婦人部で、を合言葉に大会に備え審判講習会を開催するなど、部員一丸となって大会に臨みました。

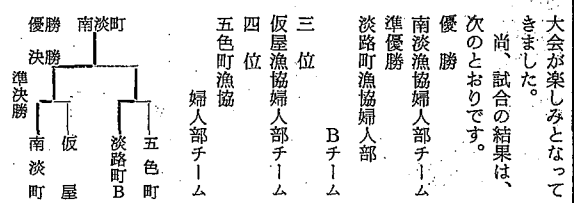
大会には十七チーム(18名)が参加し、優勝を目指して熱戦を繰りひろげました。当日は、スポーツの秋を象徴するかのような晴天に恵まれ、島内各婦人部員の精鋭が集

## 淡路漁婦連バレーボール大会



優勝 南淡漁協婦人部チーム

いとの挨拶がありました。続いて、兵庫農林水産事務所副所長坂井登氏、淡路漁協婦人部、松帆悦子さんが選手宣誓を行いました。



大会が楽しみとなりました。試合の結果は、次のとおりです。

## 兵庫JCC通信

### 今、農協・生協では

農業協同組合 古くて新しい 有線放送電話 有線放送電話ってご存知ですか。あまり都会では見かけませんが、有線放送電話は農山漁村の情報伝達手段で、昭和二十年代後半に有線放送に簡単な送受信機を付設した、いわゆる「通話も放送もできる電話機」として誕生しました。

昭和四十年代にピークを迎え、その後は一般電話の普及などによって減少傾向でしたが、近年は放送と通話の基本的な機能に加え、各種の多目的利用が

放送農協の魚嶋典子さんが最優秀賞に輝き、県知事賞、毎日新聞社賞を受賞しました。なお、魚嶋さんは十一月二十六日に開かれる全国のアナウンスコンクールに参加し、入賞が期待されます。

生活協同組合 当県連では、「第四回県民シンポジウム」を兵庫県消費者団体連合会と共催(後援・兵庫県連)で、十月二十九日(土)午後一時から午後三時過ぎまで、兵庫県民会館九階ホールで開催しました。

このシンポジウムは、三年前から行っているもので、消費者が関心を抱いている問題をテーマに、いろいろな立場の人たちの意見を聞きながら、みんな

話しあおうというものが、今年のテーマは、「どうなる私達の暮らし―大型間接税を考える―」で、今年三月に開いたパートIに引き続き、会場には神戸戸生協の組合員をはじめ、県下生協の職員などから合わせて約三百人が集まりました。

1、募集の趣旨 世界の協同組合関係者が、平和とよりよい生活をめざして、協同組合運動の発展を誓い、今年三月に開いた「国際協同組合デー」は、来年度で六五回を迎えます。これを記念するとともに、協同組合運動の発展と、協同組合間連携の推進を期して、論文を広く募集するものである。

2、主催者 兵庫農協組合連絡協議会(兵庫JCC) (構成団体) 兵庫県生活協同組合連合会 兵庫県農業協同組合中央会 兵庫県漁業協同組合連合会 兵庫県森林組合連合会 3、テーマ (次のいずれかのテーマを選択すること)

1、21世紀の協同組合を展望する 2、生協、農協、漁協、森林組合等の各論 3、「兵庫県における協同組合間連携の展望」

※対向表面に、懸賞論文と朱書きすること。 ※応募作品は、未発表のものに限る。 ※理由の如何にかかわらず、応募原稿は返却しない。 6、賞金 優秀論文二編 金十万円 佳作 五編 金五万円 ※応募者全員に記念品贈呈 ※入選作は、デー・兵庫県記念大会で発表 7、問合せ先 各連合会論文担当者に郵送のこと。

## 第65回国際協同組合デー記念 懸賞論文募集!!

1、募集の趣旨

2、主催者

3、テーマ

4、応募資格

5、応募の締切および注意

6、賞金

7、問合せ先

## 10月の海況と漁況 (兵庫県立)

1、海況 (明石海峡周辺) 旬平均水温は上旬24.5℃、中旬23.0℃を示して上旬より、平年に較べて上旬は1.3℃高目、また中旬は0.8℃高目に推移している。

2、漁況 (小型底曳網) 明石海峡周辺を主漁場とする小型底曳網ではメイトガレイ、ウマツラハギなどが漁獲されている。主要魚種のうち、伊水道北部の表層水温は26.4℃、27.9℃を示しており、平年に較べ約1.3℃高目である。一日一隻当たり20~50kg(前年比3.0)が漁獲されている。一方少ないのはマダコ(前年比0.5)およびマコガレイで特にマコガレイの少ないのが目立つ。メイトガレイは新メイトガレイが主体である。メイトガレイが主体である。メイトガレイが主体である。メイトガレイが主体である。

調査地: 明石浦 主漁場: 大阪湾北西部および播磨東部

漁業種別	漁獲量(kg)	日平均	前年比	単口単価(円)	備考	
小型底曳網	メイトガレイ	5-6	0.8	1,500-5,000	大阪府	
	マコガレイ	2-3	0.5	2,000-3,000		
	アナゴ	5-6	1.0	1,000-2,000		
	ウマツラハギ	2-3	1.0	300-1,000		
	カサガハギ	5-10	1.0	1,000-2,500		
	カサガハギ	10-20	1.0	300-1,500		
	クルマエビ	1-2	1.0	6,000-10,000		
	メイトガレイ	10-15	1.3	1,500-5,000		播磨府
	マコガレイ	2-3	0.5	2,000-3,000		
	メイトガレイ	5-6	0.5	1,000-2,000		瀬戸内
マコガレイ	2-3	1.0	1,000-2,500			
ウマツラハギ	10-20	1.0	300-1,000	エビ漁		
カサガハギ	5-10	1.0	1,000-2,500			
香附網	ウマツラハギ	50-100		300-1,000	瀬戸内	
	カサガハギ	20-30		300-1,500		
一本釣	中エビ	10-20	0.5	1,000-1,500	エビ漁	
	小エビ	50-100	1.0	200-700		
	クルマエビ	5-10	1.0	300		
	ガザミ	1-2	0.5	6,000-10,000		
香附網	マダイ	10	0.7	5,000-15,000	瀬戸内	
	ハマチ	10-50		1,300-1,500		
一本釣	タチウオ	30-60	0.6	200-1,300	瀬戸内	
	サワシ	5-20	1.0	1,000-1,800		
	サゴシ	3-10	0.2	500-850		
延縄	アナゴ	40-50	2	1,800	瀬戸内	
	シロゴチ	30-60		400		
	カサガハギ	15-30		1,000-1,800		

漁獲の増減: ウマツラハギは昨年と比べて多いが、その他の魚種は全般的に低水準の漁獲量である。小前底曳網によるメイトガレイは新メイトガレイが主体である。秋漁期のウマツラハギは昨年と比べて少なく、特にサゴシの減少が目立つ。タチウオ漁獲量は現在大阪湾北西部にある状態、漁獲量は昨年と比べて下回っている。

普及だより

観光漁業と漁場管理

近年、盛んな観光漁業環境の中で、経営の合理化が多量に模索されていまして、そのなかで観光漁業についても、関心の高いところでは、増加は激しいが、観光客の増加をもちたらず恐れも多分にあるので、このような問題の克服について、観光にも力をいれ、なおかつ、磯根漁場の自主管理川内三浦市城ヶ島漁業協同組合を訪れ、その理念と手法について学ぼうと考へました。

また観光漁業の一部である、遊漁船については、遊漁者の急増にともない現行の漁業との間に大きな摩擦の生じる恐れがあります。これらの問題についてユニークな遊漁調整を推進している神奈川県行政当局を訪れ、観光漁業の導入と問題点の解決の糸口を学ぼうとしました。

まず最初に、城ヶ島合事務所で遊場の受付をし世話人が順番制の配船を行うものです。また、客を乗せたときには必ずその収入の10%を遊漁手数料として組合に納入するといふことが行われていまして、その料金については、釣り客四人までの小型船で一六、〇〇〇円となっています。

遊漁関係の収入は、組合員一人当り年間七〇万八〇〇〇円、この収入は、なかなか良いと当組合員は思っています。

観光客の増加にともなう観光収入は増加しましたが、磯荒しやゴミの不始末等のトラブルが増え、遊漁者間のトラブルも増え、長年にわたって実行されてきており、学ばべきところは非常に大きいと思えます。

最後に神奈川県における遊漁対策について報告します。

神奈川県では推定二〇〇万人の遊漁者がいると考へられていますが、遊漁の大衆レジャー化が進み、魚を釣って帰らないと気が済まない人たちが増えるとともに漁業者とのトラブルが急増してきています。神奈川県では、兵庫県のように漁業調整規則による非漁民の動力船を使用しない一本釣の禁止規定が無いため遊漁専門の釣船業者が多数あり、また、

獲サイズの遵守、ウェットスーツ及びマスク（アクアラング）の使用禁止の徹底などの規制を行っています。この規制の違反者にたいしては一回目は注意、二回目は実稼働一週間の営業停止処分を行っています。漁獲サイズについては、抜き打ち検査を行って監視しています。そのほか、アワビは二五mmで受け入れ放流サイズは四〇mm以上です。これによって、アワビの水揚げのうち六〇%が放流物で占められ、栽培漁業の成果が上がっています。

漁場管理については、漁業者一人一人がその重要性について強い自覚をしなければ、長続きするものではありません。その点、城ヶ島漁業協同組合では漁業者間のトラブルも少なく、長年にわたって実行されてきており、学ばべきところは非常に大きいと思えます。

第二に、遊漁協議会の設置運営です。

神奈川県では昭和四五年以来、地区ごとには地域遊漁協議会を、県下全域では県遊漁協議会を設置し、漁業と遊漁との秩序を維持するため遊漁に関する事項を協議し、相互の連絡協力を図っています。この会は漁業者団体、遊漁者団体、神奈川県、市町、公益代表、学識経験者などで構成されています。この会は遊漁協定書の締結、啓蒙普及事業、遊漁に関する調査等を行っています。

第三に漁業主導型の遊漁の推進があげられます。

これは漁業協同組合に釣り船部を設置させ、直接の当事者である釣り船漁業者と遊漁者団体とで納得のいく漁場利用を図ることを指導し、これによって漁業者の直接の声を反映させていきます。

今回の技術交流で私たちは、観光漁業の導入とそれによる観光客の増加や密漁の問題、年々大きくなっていく遊漁の問題について神奈川県の実態を学びましたが、これらの問題の解決には現状と問題点の正確な把握は勿論、広い視野にわたる長期的広域的な対策が必要であると感じ、漁業者一人一人が自分たちの海を守っていくこととする意志が大事だと感じました。

撰津播磨普及班



オニオコゼ



調査地：沼島 主漁場：紀伊水道北部

調査地：福良 主漁場：鳴門海峡、紀伊水道北部

調査地：淡路町 主漁場：大阪湾西北部

漁業種別	隻数	主魚種	一隻 日平均		キロ単価(円)	備考
			漁獲量(kg)	前年比		
小規模漁期	50	カワズエビ大	1-2	0.1	1,700	
			2-3	0.1	450	
		カマス	5-15		350	
			10-30	1.0	140	
		シヤコエビ	5	0.8	650	
			2-3		400	
		ワタリガニ大	1-2		1,800	
			3-5		900	
		マルアジ	5		400	
			タイ大		7,000	
一本釣	30	タイ大	2-5	0.4	3,700	
			中		2,300	
		ハツサカ	小		1,800	
			中		2,400	
平アジ	10	ハガ	15	1.0	200	
			5		200	
刺網	23	ハツサカ	少		150	
			マルハガ	2	0.5	1,500

漁業種別	隻数	主魚種	一隻 日平均		キロ単価(円)	備考		
			漁獲量(kg)	前年比				
小規模漁期	3	シラサ	0.2	0.1	4,000	エビ清		
			0.5		1,000			
		カワズ	10	5.0	700-800			
			12	2.0	300			
		エビ中	1	0.3	1,000-2,000			
			2	2.0	1,200-3,000			
		アサギ	2	その他	6			800
					60			1,100
		2組	5	ハマチ	20			300
					2			4,000-6,000
一本釣	58	サワラ大	10		1,500			
			25	5.0	1,100			
中	47	サゴシ	12	0.2	400			
			80	0.8	700-1,300			
タチウオ	16	フグ(5寸)	4	0.4	6,000			
			1		1,100			
アサギ	11	ヒラメ	1.5		2,800-6,000			
			0.5		5,000			
イセエビ	2	マコチ	1		1,500			
			20		400-600			
ウマヅラ	3	タコ	25	0.5	1,580			
			2		300			
たこ盛	20	サルウニ	60枚		840			
			2	0.5	840			
突撃	2	タコ	4	1.2	2,500			
			4	1.2	2,500			
赤ナマコ	2	青ナマコ	2	2.0	1,000			
			5	5.0	800			

漁業種別	隻数	主魚種	一隻 日平均		キロ単価(円)	備考		
			漁獲量(kg)	前年比				
小規模漁期	20	アナゴ	2-6	0.7	2,600-3,000			
			2-3		1,300-1,600			
		エビ	5-10	0.5	1,500-1,600			
			3-5	2.0	1,800-2,000			
		ハマチ	5	ジャノメ	3-4			700-800
					3-6			5,000-12,000
		5	マダイ	5-15	0.6		5,000-1,200	
				200-375	0.4		80-440	
		32	シラス	1-2	1.0		3,400-3,700	
				1-2			1,600-2,000	
一本釣	20	ハマチ	3-5		1,100-1,300			
			3-5		900-1,100			
30	サワラ	5-15	0.7	600-1,100				
		3-10	0.2	600-700				
タチウオ	16	マコチ	10-30		600-800			
			5-10	0.5	3,000-4,000			
3	キス	15-25	1.5	1,800-1,900				
		5-10		7,000-9,000				
5	トラフグ(5寸)	1-3	1.0	2,500-3,000				
		2-5		1,600-1,800				
5	マコチ	8-15	1.2	1,200-1,400				
		5-15		1,100-1,200				

漁況の特徴:全般にどの魚種についても漁獲量は少ない。一本釣のマダイは不漁で1kg級以上のものはほとんど見られぬ。また、刺網についてもマダイはほとんど漁獲されていない。ハツサカが少ないようである。

漁況の特徴:

漁況の特徴:船内網によるシラス漁は10月中旬から出漁しているが、依然として不漁が続いている。漁場は明石海峡周辺である。大阪湾とは対照的に捕獲量では好漁が続いている。

